

YouTube 投稿動画におけるプライバシー侵害の現状 —感情表出との関わりを中心に—

熊谷佑太

現代社会においてマスメディアの定義は徐々に変化している。かつての新聞やテレビのような一企業が一般大衆に向けてコンテンツを発信するスタイルから、SNS の普及により、一般大衆の間での相互発信へと姿を変えつつある。その中でも無料動画サイトの利用者の増加は著しく、最大手の YouTube には現在毎月 10 億人以上のユーザーがアクセスし、動画が毎月 60 億時間以上視聴されている。こうした利用状況の一方、動画投稿サイトでプライバシー侵害動画が溢れている。

現在 YouTube では、プライバシー侵害動画を発見し次第削除できる体制が取られているが、削除の申し立てのプロセスに手間がかかる上、アップロードに関する規制が全くない。つまり、プライバシー侵害問題に対する有効な対策が十分になされていないのが現状である。こうした状況を打開すべく、インターネットでのプライバシー問題、特に動画投稿サイトのコンテンツに関連したプライバシー問題について、様々なアプローチで研究がなされている。その中で動画のプライバシー侵害と投稿者の感情の表出との関係が示唆されているが、具体的な相関関係までは明らかにされていない。これらの背景を踏まえ、本研究はプライバシー侵害動画を特定する手がかりを得ることを目的に、投稿サイトにアップロードされている動画を分析し、プライバシー侵害動画は、そうでない動画と比べて、投稿者の感情表出の程度が高いという仮説の検証を行う。

動画投稿サイト YouTube 内の動画からカテゴリーを選択し、YouTube のガイドラインに従い、プライバシーを侵害している恐れがあると判断した動画 50 本と、侵害していないと判断した動画 50 本、合計 100 本の英語音声の動画を分析対象として抽出した。これらの動画の音声を文字起こししたテキストを使用して、ANEW メソッドに基づく感情分析を行った。

分析の結果、プライバシーを侵害している恐れのある動画群と侵害していないとみられる動画群との間に、覚醒度の相違が見られた。具体的には、前者のほうが高い覚醒状態で撮影されている傾向が観察された。本研究では ANEW による覚醒度と感情価という 2 つの尺度からの分析を行ったが、今後の課題としては、より詳細なプライバシー侵害と感情表出の関係を考察するために、その他の感情尺度も併用して研究を行う必要があると感じた。

(指導教員 芳鐘冬樹)